

## 令和6年度卒業生への祝辞（卒業のしおり掲載）

卒業生の皆さんは人生における貴重な3年間を都城農業高等学校で過ごしました。卒業にあたり、お祝いの言葉を贈りたいと思います。卒業、おめでとうございます。皆さんが入学した2022年4月から、我が国の成人年齢が約140年ぶりに引き下げられましたので、卒業生全員が4月1日までに成人となります。高等学校を卒業した後は自己責任の重さが増していく不安があるかもしれませんが、大人としての義務を果たしつつ、自分の目指す道を自分の意思で堂々と歩むことができる人生を楽しんでください。

また、保護者の皆様にはお子様の卒業を心よりお祝い申し上げますとともに、本校教育活動への御理解と御協力をいただきましたことに対しまして、厚く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんには「人生の道標にしている人」がいますか。難しい質問かもしれませんが、その人は身近な人でも良いし、面識のない人や歴史上の人物あるいは架空の人物でもいいでしょう。ある日、別の人に替わっても構いません。

私が人生の道標にしている人は、かつてアジアの極貧地域と言われていたネパールのムスタンに豊かな村へと変えた農業指導者、近藤亨（こんどうとおる）先生です。2010年（平成22年）3月に東京での講演を聴かせていただいた後、幸運なことに主催者のお計らいで近藤先生とその支援者7名での夕食会にお誘いをいただいて、近藤先生からムスタンでの御苦労や生きがいについて直接お聞きすることができました。

近藤先生は70歳の誕生日に単身でネパールへ移住されました。そして、標高2,750mのムスタン・ティニで村人に米を食べさせたいという一心で稲作に挑戦し、数年の失敗の後に米を実らせることに成功しました。また、標高3,600mのムスタン・ガミでも稲・野菜・果樹の栽培や乳牛の飼育を成功させる等、信じ難い奇跡を起こされました（富士山の標高は、3,776m）。農業だけではなく、ムスタンに病院と17校の小・中・高校を開校させるという偉業を成し遂げられたことが、近藤先生の著書『秘境に虹をかけた男 ネパール・ムスタン物語（新潟日報事業社）』に記されています。私は行き詰まりを感じた時、「もし、近藤先生に相談したら何とおっしゃるだろうか？」と考えながら、複数の癌に侵されたご老体で、不毛の土地を豊かな農地に変えようと農作業に取り組まれている近藤先生の姿を想像することがあります。そうすると「もっと頑張らねば！」という元気と勇気が湧いてくるとともに「悩んでばかりいないで行動しよう！」という気持ちになります。

話は変わりますが、日本における少子高齢化は予想をはるかに超えるスピードで進行する一方で、世界では今後50年の間に約30億人増加すると予想されています。そのため、世界中でAI、IoTなどの先端テクノロジーを活用した情報革命の推進やSDGs達成への取組を加速させることで、持続可能な環境・経済・社会の3つの側面の安定化を図ろうとしています。それに伴い、私たちの日常生活や働き方、政治・経済等の仕組みが大きく変化していくことは間違いありません。皆さんはこうした変化の激しい時代を生きていくことになります。安定志向は時代遅れの過去の考え方になりましたので、社会の変化に対応しながら自分の目指す道を着実に歩み続けるための力を、自分自身の努力で育て上げる時代であるとも言えます。

そして人生100年時代を迎えるに当たり、「学ぶ、働く、引退」という単線型スリーステージの人生モデルは終わりを告げ、学ぶことと働くことを繰り返すマルチステージの人生を送る時代がすでに到来していることを日本政府が認めています。充実した人生を送るには「継続して学ぶこと」、「失敗を恐れずに挑戦すること」、「ストレス管理やメンタルヘルス・ケアを実践すること」、「節目ごとに目標と目標達成のための行動計画を立てて実践すること」が大切です。さらに、社会から孤立しないよう「コミュニティ活動への参加」も不可欠でしょう。

先程紹介した近藤先生は、不可能と思われていた高地での稲作に挑戦しながら、現地の人々の豊かな生活を実現するためのマルチステージの人生を送られました。このような先人の経験と御苦勞に学び見倣う時代です。自分の価値観に合うという基準ではなく、社会に貢献する意欲が高まるとともに、元気と勇気が湧いてくるロールモデルを見つけ、模範としてください。

結びに、卒業生の皆さんが伝統ある都城農業高等学校で学んだ自信と誇りを胸に、あらゆる困難を乗り越えながら幸せな人生を歩まれることを祈念し、祝辞とします。

令和7年3月1日

宮崎県立都城農業高等学校

校長 山下 勉